

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4090700040
法人名	北九州ヘルスケアサービス株式会社
事業所名	グループホーム 黒崎
所在地	福岡県北九州市八幡西区東王子町7番8号 (電話) 093-621-2612

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成20年1月24日	評価確定日	平成20年3月11日

【情報提供票より】 (平成20年1月5日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	19年	4月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	16 人	常勤	13人,	非常勤 3人,
			常勤換算	14.7人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	68,000 円	
敷金	有(200,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,600 円		

## (4) 利用者の概要 (平成20年1月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	67 歳	最高	98 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	益本医院・三菱化学病院・八幡東病院・かい歯科医院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2階建ての1階部分がデイサービスで、2階が事業所になっている2ユニットの事業所である。高層マンションに隣接し、区役所や小学校、病院等の公共施設が多い市街地に立地している。管理者はゆるぎない介護に対する情熱や方針を持っており、職員の意識も高く、研修等職員の育成も配慮されている。家族への報告は一人ひとりの介護ケア報告書を作成し、写真入りで事業所での様子がわかるよう、きめ細やかな配慮をしている。家族との連携がしっかりと取れ、近隣住民との共存を深めようと取り組んでいる事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、改善計画書を作成したが、対応・活用できていない。今回の評価を活かし、全職員で協議して取り組んでほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は朝礼や月例会で職員に話し、各ユニットの管理者がまとめて作成している。全職員で評価の意義や目的を理解し、協議する等して自己評価に取り組んでほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、運営推進会議の意義や事業所の行事等を知らせている。委員からは市民センターのイベントや活動を紹介してもらい、参加する等、意見を反映している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱は各ユニットの玄関に設置している。第三者苦情窓口は、重要事項説明書に明示している。運営推進会議には家族代表が参加し、意見を聴取している。家族来訪時に家族の意見等を聴取し、ミーティングや月例会で取り上げ、運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入している。地域の行事に参加し、自治会の会議に事業所会議室を提供する等、日常的に地元の人々と交流することに努めている。近隣の小学校との交流や市民センターのイベントに参加している。将棋や高校生の吹奏楽の演奏等のボランティアも受入れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【1 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「地域社会との交流で、生き生きとやりがいを持って暮らせる環境づくりを…」と地域密着型の視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット毎の朝礼時に、理念の実践について職員で話し合い、確認しながら理念の実践に結び付けている。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。地域の行事に参加し、自治会の会議に事業所会議室を提供する等、日常的に地元の人々と交流することに努めている。近隣の小学校との交流や市民センターのイベントに参加している。将棋や高校生の吹奏楽の演奏等のボランティアも受入れている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は朝礼や月例会で職員に話し、各ユニットの管理者がまとめて作成している。前回評価での改善課題については、改善計画書を作成したが、対応・活用できていない。	○	自己評価については、全職員で評価の意義や目的を理解し、協議する等して自己評価に取り組んでほしい。また、外部評価については、今回の評価を活かし、全職員で協議して取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、運営推進会議の意義や事業所の行事等を知らせている。委員からは市民センターのイベントや活動を紹介してもらい参加する等、意見を反映している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや保健師に利用者の相談をしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、制度に関して外部・内部研修で学習している。管理者が外部研修を受けた際には、職員に月例会で伝達研修をしている。家族等への説明は、必要に応じて説明している。学習記録やテキストがある。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、個人別のケア報告書と預かり金の出納表を家族に郵送している。ケア報告書には行事の写真等を載せ、日常生活の暮らしぶりを分かりやすく報告している。金銭管理については、預かり金の出納表をコピーし、領収書と共に報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は各ユニットの玄関に設置している。第三者苦情窓口は、重要事項説明書に明示している。運営推進会議には家族代表が参加し、意見を聴取している。家族来訪時に家族の意見等を聴取し、ミーティングや月例会で取り上げ、運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職を最小限に抑えるため、資格の取得のための勤務体制の配慮等、個人の意欲や向上心を促進するための支援をしている。また職員に馴染むようユニット間の勤務交替をして、利用者の状態把握に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用は、性別・年齢・資格の有無で採用対象から排除する事はない。また職員に関しては個人の能力を伸ばし、さらに向上心や夢を実現させるための配慮や支援をしている。資格を取り、意欲を持って働いている職員も多く、利用者や職員が安心して働ける職場作りを目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>職員の人権学習は月例会で行っている。管理者が外部研修を受講した後は伝達研修をし、研修記録・テキストを保管している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月研修を実施し、職員の研修の機会を確保している。資格取得については勤務体制の配慮をし、職員を育てる仕組みがある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は近隣のグループホームと交流がある。</p>	○	<p>管理者だけでなく、職員も含めた同業者と交流する機会を持ち、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしてほしい。</p>
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、本人や家族の希望で見学・体験入居を行っている。利用者と家族が安心できるように、家庭訪問や施設訪問をして、安心して利用が出来るように努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理を一緒にしたり、畑仕事や裁縫を教えてもらう事がある。干し柿や寿司等、自作の料理を分けてくれたり、楽器を弾いて楽しませてくれる利用者がある等、職員が本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護度が進んでいるユニットでは、思いを把握するために朝のミーティングや職員間の情報交換で、その日の支援方法を決定している。また、家族に相談することもある。できるだけ本人の意向や状態を見ながら、臨機応変に対応している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族及び職員の意見や気づきを反映した個別具体的な介護計画を作成している。介護計画は、家族の署名、押印がある。		
19	39	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した場合は、管理者は家族と連絡を取りながら、他の利用者と一緒に見舞いに行ったりしている。早期退院に向けて医師と連絡を密にしている。また通院の付き添いや送迎等は、家族と連携を取り、対応している。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族等の希望を聴き、希望に添った受診支援を行い、かかりつけ医との連携を取っている。家族には毎月受診の報告をしているが、状態によっては、その都度家族へ電話連絡をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針があり、利用時に家族へ説明している。利用者が重度化した場合は、本人や家族の意向を大切にしながら、かかりつけ医と相談して対応を検討している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の暮らしの中で、職員は一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉かけや対応に配慮している。記録や個人情報等の取り扱いについては十分配慮し、管理している。内部研修等で職員の意識の向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して支援している。利用者の何気ない言動からしたいことを見出し、柔軟に支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に食事の準備や片付けを行っている。職員と利用者が同じテーブルで同じ物を食べ、楽しく食事ができるよう雰囲気作りに配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は大まかに設定しているが、入浴時間は利用者が希望する時間で入浴できるよう支援している。入浴拒否する利用者には、言葉かけや併設のデイサービスの風呂を利用する等、工夫をして支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることや得意なことを把握して、料理・畑仕事・梅干しづくり・大正琴・お正月の着物の着付け等、楽しみごとも含め、一人ひとりにあった支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、週1～2回の買い物、2ヶ月に1回のドライブを行っている。外食は誕生日に利用者の希望に沿って支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室、玄関は施錠していない。職員は外出傾向のある利用者を把握しており、併設のデイサービス職員の協力も得ながら、見守りの連携を行っている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。そのうち1回は、消防署の協力を得て実施している。	○	今後はいざという時のために、地域住民の参加や協力を得ながら避難訓練等を実施してほしい。また、非常用食料や備品等を準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養・水分摂取量に関しては、一部利用者のみ記録がある。栄養士の指導の基、利用者の嗜好を把握し、献立を作成している。利用者の好物を常備食として備える等、習慣に応じた支援も行っている。	○	一人ひとりの栄養・水分摂取量について、大まかに把握してほしい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは利用者の家族から提供された馴染みの机・筆筒等を設置し、家庭的な雰囲気がある。また水槽で観賞用の魚を飼育し、和める演出がある。日差しが入る窓は、カーテンで柔らかな日差しを取り込めるよう工夫している。不快と感じる音はない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた筆筒や置き物・家族の写真・仏壇・縫いぐるみ等を持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※      は、重点項目。